

AIDS Care Training for International Organization of Nurses University of California, San Francisco(UCSF) Center for AIDS Prevention Studies(CAPS) (エイズ拠点病院医療従事者海外実地研修報告)

新潟大学医歯学総合病院看護部 知野優子
口腔外科外来看護師長

2005年1月15日から30日まで、サンフランシスコ・カイザー・パーマネンテ病院オークランド HIV コンサルテーション・クリニックで海外研修してまいりました。

カイザーパーマネンテ病院は、HIV ケアにおいて予防教育を含む健康教育や、HIV へのチーム医療にいち早く注目し、多面的な側面からのサービスを提供している病院です。チーム医療のメンバーは、HIV 専門医、HIV カウンセラー、薬剤師、MSW、栄養士、感染管理担当ナース、ヘルスエデュケーター、そして以上のメンバーの管理調整を行う、ナース兼ケースマネージャーから構成されていて、それぞれの方から話を聞くことができました。そしてケアを提供している HIV の患者数は、現在700人を越えているということはとても驚きでもありました。

研修内容は、アメリカの HIV ケアにおいて先駆的役割を果たしているサンフランシスコにおける歴史と実績を学び、現状に直接触れることで地域性を越えて、日本で導入可能な普遍的な看護

の理念、方法論を学習しました。

そのために病院研修だけでなく、ワークショップや、パネルディスカッション、グループワーク、個人指導、アクションプラン作成・発表会などのカリキュラムがありました。

HIV/AIDS 看護全般に渡る研修内容であり、特に『チーム医療』はもちろん、『HIV 感染管理』に関すること、そして個人的には『偏見に対する差別』と『Sexuality (セクシャリティー)』についてはとても適時性のある内容で、学び得ることが多くありました。

なかでも NGO 団体を訪問し、日本人 HIV ポジティブのゲイ (同性愛) の方とお話する機会がありました。口腔内に急に「できもの」ができて UCSF へ、そこで HIV 感染を告げられ、すぐに口腔内の腫瘍を切除されたそうです。癌かもしれない不安と感染したことでわけがわからず、生きているのか死んでいるのかわからないとき人生観が変わったと言っていました。口蓋をかなりの切除をうけていて、コミュニケーションも鼻から空



気が抜けてしまうほど困難な方でしたが、15年間に服薬治療と医療サービスを受けており、とても元気なことに驚きと、また明るさに励まされました。お別れする際に「HIV がなくなったら何をしたい?」と尋ねたら、「あまり変わらないと思う。薬の手間がなくなるだけ。HIV ポジティブだって、問題がなければ普通の人とかわらない」そして、「自分は HIV とわかって仕事をしているから、ラッキーだと思う。サンフランシスコだったから、というラッキーな部分もある。だからサンフランシスコに来た、という日本人 HIV ポジティブもいるんだよ。慢性疾患みたいなものだから、医療のプロとしての看護師が AIDS/HIV に対して、どうか偏見でみないでほしい。」と話されていたのが印象的でした。

また、HIV 感染では多くの口腔症状が出現し初発症状や主訴となることがわかりました。口腔内にカポジ肉腫や、ノンホジキンリンパ腫ができたら AIDS 発症とみなされます。

1981年アメリカで初めてゲイのなかから AIDS が報告された時、口腔内が真っ白であることから、AIDS と口腔内症状が注目を集め、1983年 AIDS がウイルス感染症であることがわかり歯科診療も危険があると注目されてきました。



AIDS ウィルス (HIV) は、血液、精液、膣液ばかりでなく、唾液、尿、涙、汗などほとんどの体液に存在します。

ところが1992年、CDC は他人に感染させる体液から唾液を除外してしまいました。

しかし、抜歯、歯冠形成、印象採得からスケーリングなど、ほとんどの処置が出血を伴う歯科診療の場では例外であると報告しています。すなわち、歯科診療においては、唾液が単独で存在することはまれで、常に血液混入している可能性があり、感染の可能性が高いこととなります。

そのためにも歯科診療において、徹底したスタンダードプリコーションを行っていく必要があると思います。

今後も HIV 患者さんの推移は増加の傾向が、必ずあると考えられます。

どのくらいのアクションを起こせるかわかりませんが、AIDS/HIV 拠点病院の看護師として学び得たことを活かしていきたいと考えています。

最後に、このような海外研修の機会を与えてくださいました看護部、不在中の業務をサポートしてくださいました歯科病棟・外来スタッフ、その他の皆様に深く感謝いたします。

